

自分らしい生き方を選んだ人々

新潟東警察署 刑事課 廣瀬 未来さん

高校生の頃、私が電車内でちかに遭った時に犯人を捕まえてくれた刑事さんに憧れて、私も警察官、中でも刑事になりたいと思うようになりました。

例えばわいせつ事件の被害に遭った女性の心に寄り添って事情聴取することは、女性警察官にしかできない仕事と言えますし、それに基づいて捜査を進め、凶悪な犯人を捕まえることができた時には、被害者の安全と安心を守ることができたやりがいを感じます。

現在私は、1歳の子どもを保育園に預けながら仕事をしています。育児にも仕事にも一生懸命取組み、充実した毎日を送っています。



新潟東警察署 地域課 伊藤 直人さん

私は、小学生の時に祖母が交通事故に遭いひどい怪我をしてしまったことがあります。そのような姿を二度と見たくないと思って、交通事故を社会からなくすため、取締りや様々なイベントで広報活動を行っている警察官になりました。そして、警察官になるため、中学時代は部活と両立しながら、一生懸命に勉強をしていました。

普段の仕事で町の中をパトロールして、交通違反をした運転手がいれば取締りを実施し、私達の姿を運転手に見せて、交通事故を未然に防ぐ活動等をしています。

これからも、交通事故をなくすため積極的な取締りと広報活動を行っていきたいと思います。



自分の個性や能力を生かした進路選択や将来について、学習を通してどのように考えましたか。

家人の人から感想やメッセージを書いてもらいましょう。

保護者の皆様へ

新潟大学大学院教育学研究科 教授 相庭 和彦

中学校でどうして男女平等教育を行う必要があるのでしょうか。それは子どもたち一人一人の夢をかなえようとする姿勢を崩さないためです。中学校時代の子どもたちおとなになるためにいろいろな経験を積んでいきます。その経験を通して子どもたちは社会を理解していきます。日本社会には「男性と女性が平等である」という考え方方がまだ十分に根を張っているとは言えません。思春期に差し掛かった子どもたちは、自分が「女性である」あるいは「男性である」ということを意識し始めますが、「男性・女性」ということが理由で将来の自己規定していくと子どもたちの可能性がおのずと小さくなってしまいます。自己の可能性を小さくしていくと夢や希望を実現しようとする内発的なパワーが小さくなってしまいます。男女平等教育は、子どもたちの中にこのような状態を作らない為に必要な教育なのです。保護者の皆さん、この資料をヒントに男女平等についてお子さんと話してください。



ひとりひとりが活躍できる社会を目指して

保護者の皆様へ

男女がともに自立する力をつけて！

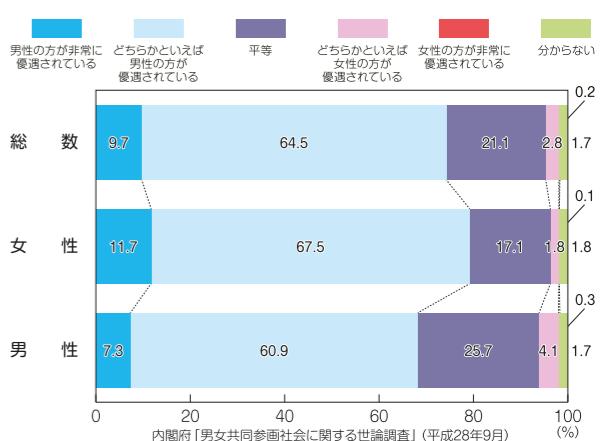
家族が力を合わせ、それぞれが自立した生活を送ることが、お子さんの視野を広くし、心を豊かにします。これによりお子さんは、ひとりひとりが活躍できる社会の在り方についての考えを深めてくれるのではないかでしょうか。

男女の平等感は同じでしょうか？

今日、男女共同参画社会に向けての取組が進められています。このため、中学2年生用「男女平等教育」学習資料は、「ひとりひとりが活躍できる社会をめざして」をテーマとしました。

しかし、平等感には男性と女性の間で差が見られます。なぜ、その差が生まれるのか、お互いに議論を深めていくことが必要ではないでしょうか。

●男女の地位の平等感（社会全体で）



学校生活において「男女平等」となっている場面は、どんなことがあるだろうか？

上のグラフから、男女平等社会になっていると言えるかな？

なぜ？ 男性でも女性でも 『男性の方が優遇されている』と 感じてしまうのだろうか？

日常生活や社会の中で『男性が優遇されているかも』と感じる場面と、
なぜそう感じるかを書いてみよう

男性が優遇されていると感じる場面	そう思う理由



新潟市では「男女共同参画」を進めています。

「男女共同参画」というのは、男女が、互いに人権を尊重し、対等なパートナーとして責任を分かち合い、性別にとらわれることなく自分の個性や能力を発揮できることをいいます。

※「参画」とは話し合いや活動に加わるだけの「参加」と違い、メンバーの一員として考えたり、決めたりすることに積極的に関わっていくことをいいます。

男女共同参画社会の実現に向け、自分の個性や能力を発揮していくことが大切です。
そういった意味でも、自分の個性や能力を生かした将来設計や進路選択がとても重要になります。

